

第3回安城市新美南吉絵本大賞 第2回選考委員会会議録

日 時	令和3年10月11日（月）午後3時	
場 所	アンフォーレ本館3階健康支援室・講座室	
出席委員	松田 素子	委員長（ZOOMにてオンライン出席）
	塚原 和江	副委員長
	伊藤 義明	委員
	加藤 なつ子	委員
	芝田 陽子	委員
	杉浦 平一	委員
	都築 秀行	委員
	羽佐田 透一	委員
	水野 和子	委員
	山田 孝子	委員
事 務 局	石川 良一	教育長
	杉浦 章介	市民生活部長
	横手 憲治郎	アンフォーレ課長兼図書情報館長（以下館長）
	稲垣 正典	アンフォーレ課図書サービス係長
	市川 祐子	アンフォーレ課図書サービス係司書（主査）
	鈴木 亜依子	アンフォーレ課図書サービス係主事
	石原 紳	学校教育課研究係社会教育指導員 （図書館教育アドバイザー）
傍 聴 人	なし	
閉 会	午後4時41分	

○議事結果要旨

(1) 募集要項（案）について【資料1】

- ・異議なし

(2) 審査の日程について

- ・一次審査については、令和4年11月上旬の平日で調整中。

→第3回選考委員会でお知らせすることで同意。

- ・二次審査（最終審査）は、一次審査以降の日程で調整中。

(3) 作品募集ポスター・チラシについて【資料2】

- ・デザイン案に関する選考委員（※委員長除く）からの希望は下記の通り。

＜パターン1 3人＞

＜パターン2 0人＞

＜パターン9 6人＞

- ・掲載する文章量が多すぎるという意見が挙がった。

→削る方向で事務局と委員長間で調整することに決定。

- ・デザインについては専門性を有するため、委員の皆様からは意見を頂戴し、最終決定は委員長と事務局で行う。

(4) 募集作品について【資料3】

- ・事前アンケート集計結果より、得票数が5票以上の作品を候補作品とする。

①「木の祭り」（得票数：8票）

②「花のき村と盗人たち」（得票数：7票）

③「去年の木」（得票数：6票）

④「げたにばける」（得票数：6票）

⑤「でんでんむしの かなしみ」（得票数：6票）

⑥「ひとつ火」（得票数：6票）

⑦「赤いろうそく」（得票数：5票）

⑧「飴だま」（得票数：5票）

⑨「うまやの そばの なたね」（得票数：5票）

⑩「かんざし」（得票数：5票）

- ・選考委員からの意見と本賞の主旨に基づき、得票数が4票以下の作品中、意見のあった4作品も候補作品とする。

⑪「百牛物語 大力の黒牛と貨物列車」

⑫「久助君の話」

⑬「たけのこ」

⑭「こうし」

・計 14 作品で最終決定。

○議事詳細

館長：

皆様こんにちは。本日は、お忙しい中、第3回新美南吉絵本大賞の第2回選考委員会にご出席いただき、誠にありがとうございます。

本日の典礼を務めますアンフォーレ課の横手です。よろしくお願いいたします。

本日の会議は、9月14日に開催予定でしたが、新型コロナウイルスに係る緊急事態宣言により延期をさせていただきました。

委員の皆様にはご理解とご協力をいただき誠にありがとうございました。

本日の会議におきましては、地球温暖化対策および節電の必要性を踏まえ、職員は軽装（ノーネクタイ等）で出席しております。また、新型コロナの予防として、マスクの着用、手の消毒、隣との距離を開ける、30分に1回程度窓を開放するなどの対策を取らせていただいておりますのでよろしくお願いいたします。

次に会議の資料につきましては事前にお送りさせていただきましたが、会議開催日を延長したことにより内容に変更がございます。そのため資料一式を机の上に置かせていただきましたので、こちらをお使いいただきます。よろしくお願いいたします。

なお、松田委員長は、リモートで出席していただいております。

それでは、次第に沿って会議を進めさせていただきます。

1 市民憲章唱和

館長：

皆様ご起立をお願いします。資料の次第の裏面に記載されていますので、ご覧ください。私が、「わたくしたちは」まで申し上げましたら、引き続き「たがいに助け合い」とご唱和をお願いします。

＜安城市民憲章＞

ありがとうございました。ご着席ください。

2 教育長あいさつ

教育長：

こんにちは。本日はご多用の中、お集まりいただきありがとうございます。新型

コロナウイルスの感染状況が願っている方向へ向かいつつあります。ただ、これまでの経験値からすると第6波が来るのではないかと容易に想像がつきますが、どうせ来るのであれば少しでも遅く、小さい波が訪れることを願っています。

図書館運営におきましては、感染症対策にはこれまで通り気を抜くことなく、その上で可能な限り図書サービスの充実、向上に努めてまいりたいと思っております。引き続き皆様のお協力、ご支援をよろしくお願いいたします。

先日、文部科学省が今年度の全国学力学習状況調査の結果及び分析について公表いたしました。その中で、子どもたちの新聞を読む習慣、あるいはお家の本棚に何冊本が並んでいるかという調査に対して出てきた答と、学力との関係についての分析がありました。そこには明らかな相関関係があるという分析がありました。そうした科学的な根拠に基づいて、子どもたちの文章を読むことへの抵抗感を少しでも少なくするために、図書館が担えることを充実させていければと思っております。

この新美南吉絵本大賞も、そういった中での一つの取り組みとも言えると思いますが、他にも新美南吉の顕彰事業として、小学生を対象とし、アンフォーレ課の職員が学校に出向く新美南吉の出前授業というものを行っています。ちょうど今頃、彼岸花が咲くころに、4年生の子どもたちが国語で「ごんぎつね」を勉強します。それに合わせて、既に2校が行っており、この後も予定では数校あるそうですが、ひとりでも多くの子どもたちが、国語の授業だとか総合的な学習の授業を使って、南吉に親しんでもらえると嬉しいなと思っております。

本日の会議は4つの議題があり、特に4つ目の議題である募集作品につきましては、事前に委員の皆様方には候補作として10点ほど作品を選んでいただいています。本日はその結果を参考にしながら最終的に募集作品とする10作品を決定していくと聞いております。本日もどうぞよろしくお願いいたします。

館長：

本日の会議は、安城市新美南吉絵本大賞委員会規則第4条2項で、「会議は、委員の半数以上が出席しなければ開くことはできない。」と規定していますが、委員10名のうち全員の皆様にご出席いただいておりますので、会議は成立します。

また、会議中に発言される際には、挙手の上、名前をお呼びした後に発言をお願いします。ただし、会議中に、異議なしや賛成、了承といった発言は挙手の必要はございません。

それでは議題に入ります。

松田委員長から一言お言葉をいただき、議事の取り回しをお願いいたします。

委員長：

どうも皆様、毎回毎回リモートで申し訳ございません。12月には必ず行きたいと思っております。まずは、それが申し訳ないと思いながら今日参加いたしました。

いよいよ本丸に入っていったなという感じがしていて、今日はとても大切な募集する物語を選ぶというテーマがございます。私自身も南吉の作品を全部読んでいるわけではなく、今回初めて読んだ作品もありました。なるほどと思いながら、私は絵本を作る編集者なので、これを絵本にしたらどうなるのだろうと色々な想像を働かせながら、とても楽しみながら全作品を読みました。皆さんからのアンケート集計を見せてもらい、それもまたなるほどなるほどと思っています。たとえ1票だったとしても、その票を入れられた方が「是非ともこれは入れたい。」という熱意がありでしたらば、審議の時に熱弁をふるっていただければと思います。それが今日の会議のおもしろいところだと思いますので、勝つだけの論理で行きたいとは思っておりませんので、どうぞよろしくお願いいたします。

3 議題

(1) 募集要項（案）について

＜事務局、【資料1】を説明＞

委員長：

今の説明にご不明点や異議はありますか？

＜発言なし＞

委員長：

万が一、今気付かれなかったとしても、後からでも事務局を通して私に質問を投げかけていただき、最終調整をしたいと思います。

今この場では意見がないようですので、議題（2）について事務局の説明をお願いします。

(2) 審査の日程について

＜事務局が説明＞

事務局：

審査の日程は、第1回選考委員会で「可能であれば、平日で開催したい。」という意見がございました。それを受けて再検討させていただきます。現時点では、11月の第1週の平日で1次審査を2日間決めようと思っております。最終審査が11月12日ですが、調整がうまくいかない場合は、最終審査の日程をずらさなければいけないということも考えられます。現状では11月上旬の平日での審査を予定しておりますので、第3回選考委員会までに委員の皆様のご意見を聞きながら調整させていただきますがよろしいでしょうか。

委員長：

私は今の内容で問題ありません

他の委員の方々でご意見等がありましたら、今伺います。

第3回選考委員会までに考えておくということでよいですね？

事務局：

第3回選考委員会までに調整し、委員の皆様にお伝えします。

委員長：

皆さんそれでよいでしょうか。今意見を言っておきたい方は挙手をお願いします。

＜発言なし＞

事務局：

もしかすると、委員の皆様の都合に合わせて連日ではない可能性もあります。

委員長：

平日が良いというのは、皆様のお仕事の関係ですね。

委員の皆様が揃わないと、審査は成立しないということでもよろしいですか？

事務局：

できれば皆さんに参加していただきたいですが、どうしても都合がつかないということであれば、1日だけ参加などになるかもしれません。

委員長：

来年のことですので、予定をしっかりと空けておくように皆で調整できたらと思います。

では、議題（3）についてです。

（3）作品募集ポスター・チラシについて

＜委員長、【資料3】を説明＞

委員長：

ポスター・チラシですが、私の信頼を置いているデザイナーの高橋さんに表面だけデザインしていただいたものが3パターンあります。

パターン2、パターン3の違いは「作品大募集」が描き文字なのかフォントなのかという違いだけです。なぜその2種類を作ったのかというと、この賞の名前が「安城市新美南吉絵本大賞」というのがひとかたまりの名前なので、そこだけは描き文字にし、「作品大募集」はフォントにした方がいいのではないかという考えがあったので、2種類作りました。それを踏まえて、委員の皆様のご意見をお聞きしたいと思います。

ポスター・チラシのデザインは、訴求力などある程度の専門性やそれなりの経験値が判断の基準になってきますので、この場では、文章の違いなどがなく3種類あるので、これが好きという意見を聞かせてほしいと思っています。

事務局：

挙手をお願いします。

＜パターン1 3人＞

＜パターン2 0人＞

＜パターン9 6人＞

委員長：

では委員の皆様のご意見も大切にさせていただき、最終的には事務局と話し合っ
て決めたいと思います。何かご意見はありますか。

C委員：

デザインが3パターンありますが、どれも一目文字が多すぎる。文字がいっぱい
という感じで、おそらくこんなに細かいのは読まないと思います。

委員長：

なぜそうなっているかと言うと、今までのチラシの裏面の文章量が多く、ものす
ごく分かりにくかったのです。実を言うとそこがひとつの問題でした。

まず、入れなくてはいけない要素が全体的に多すぎるのです。新美南吉の話など
も入れなくてはならず、安城市からの要望を削る作業がまだ出来ていません。

裏面の募集要項というものは、応募する人からすれば、分かりやすくしてはいけな
いので、今まで裏面に入っていた要素を少し表面に持ってきています。みんなが一
番見たいところを優先させました。前回のチラシは、募集期間も両面に入っていま
したが、どちらかに統一したいと思いました。

もし、すごく小さくしてもいいのであれば、主旨の部分など小さくすれば、もう
少し余裕があるように見えてきます。そういったことをしてもよいかということ
を私の中だけでは判断がしにくかったのです。募集する人が一番見たいのは、募集期
間と賞金。そこは結構大きいですから、そこにパッパッと目が行くようにはしなく
てはいけないと思ったので。

全部の文章を読む人はなかなかいないと思うのです。ですので、募集期間と賞金
と審査員については、色や形を変えて、目がつきやすいような工夫はしています。
人間は頭から文章を読まないで、目についたところから読むのですね。興味が沸
けば、他の部分も読んでいくという人間の心理作戦みたいなものですが、全
部最初から読むとは私も思っていません。ですが、いちよう「安城市新美南吉絵本
大賞作品大募集」、「募集期間」、「賞金」、「審査員」だけは目に入ることを優先させ
ました。

もしこの中で、小さくしてもいい文章を安城市側で決められるのであれば、デザ
イン的には多少余裕をもたせられます。そこは安城市に判断してもらわなくてはい

けないのですが。特に主旨はとっても長く、安城市からの要望なので私は勝手に削ることができません。コピー補足文も安城市からのリクエストなので私では勝手にできないという判断です。そのあたりについて、もし安城市のご判断があるようでしたら、検討していただけたらいいなと思っていますがどうでしょうね。

これまで何十年も色々な絵本の応募に関わってきて、皆がどこで間違えるか、何が分からないかをいっぱい見てきたので、そこは今回丁寧に説明をしています。

第1回目と第2回目に大賞をとった作品たちは、それぞれページ数も違ってきます。結果論ですが、物理的に本を作るときはページ数を自由にすることができず、いくつかのパターンでやらなければいけません。今の応募要項のページ数、画面割りであれば第1回目と第2回目の大賞作品と同じようなやり方で作れると思います。

今回は、間違わないようにかなり細かく事務局に提案して募集要項を作成したので、少し丁寧なのでスペースをとってしまいます。そのようなせめぎ合いの中で作っています。

また表面だけのことに移りますが、おっしゃる通り文字は多いです。多い文字の中でも、安城市が決めている文章の量や文字の大きさのご指示があれば、こちらで調整をして大事なところをもっと大きくすることができると思います。

これは即答できないですよ。

事務局：

募集要項も削れるところについては、分かりやすくシンプルな形で再調整します。

C委員：

大胆にカットしてしまったほうが、チラシ自体が読みやすくなると思います。応募者は必要なことだけでいいですよ。主旨もこんなに長く要らないでしょうね。1、2行でいいと思います。

委員長：

縮めることはできると思います。ですが、ここは安城市のご都合があって、私が無理強いをすることはできなくて、もし安城市が許してくれるのであれば、削るなどの提案はします。もっと簡易な言葉に書き換えるということは可能かもしれません。そうしたら全体の文章も短くできるのではないかと思います。

事務局：

簡単な言葉にできるかなど再検討して、応募する方が見やすいポスター・チラシにしたいと思います。

委員長：

では、私から一回提案させてください。一度それを安城市の中で検討していただいて、相談しながら今よりも文字を少なくしませんか。

事務局：

そうします。

委員長：

C委員のご意見は私もよく分かるので、できればそうしたいなと私も思っています。特に主旨の部分は長いので、安城市のご都合はまた別ですが、私の考えるこれだけは伝えたいということにしぼり、大胆な提案になるかもしれませんが、内部で検討してみてください。

C委員、貴重な意見をありがとうございました。

C委員：

もう一つ、このチラシがポスターになるのですか？

委員長：

そうです。ポスターにもなります。

C委員：

だとしたらやはり文字が多すぎですね。

委員長：

分かりました。率直に言っていただいて良かったです。ありがとうございました。

G委員：

私はパターン3を推薦しました。使われている写真は、南吉がどうしても本にしたかったという『弥厚翁』という本を手をしているもので、「本にしたい」という思いが重なっていると解釈をしたのですが、個人的には白い壁にもたれているように見えてしまっているので、「南吉も本にしたかった」というような表現ができれば面白いかなと思いましたので、意見として述べさせていただきました。以上です。

委員長：

分かりました。これをどのようなイメージとして捉えるかは人それぞれだと思っております。白い壁に見えたりもするし、南吉がほらと見せて募集していますよと捉える方もいるでしょうし、色々でしょうね。この写真は南吉さんの一番有名な写真で、事前に事務局に確認をしたら、著作権が切れているのでこのような使い方をしても構わないということでしたので、このようにしております。

1つの絵やビジュアルは、みんな受け止め方が違うのは面白いと思います。

G委員：

一番有名で代表的な南吉の写真なので、この写真を使っている意味合いも出せたらいいなと思いました。

委員長：

デザイナーにも話しておきますね。考えておきます。

副委員長：

私もパターン3を推薦しました。コピーとコピー補足文がありますが、補足は必要ないかと思います。

委員長：

安城市から入れてくださいと指示があったので入れた部分です。そこは安城市次第です。私も二重の呼びかけになるので要らないと思っていますが、削っていいなら削りたいです。

館長：

委員の皆様からたくさんの指摘があったので簡素化します。

委員長：

貴重な意見をありがとうございました。

あとから気づいた点があれば、それもお聞きして反映させたり、検討したりしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

とても重要な意見が出ましたので、これからチラシを修正していきたいと思います。ありがとうございました。

では、議題（４）について事務局の説明をお願いします。

（４）募集作品について

＜事務局、【資料３】を説明＞

委員長：

安城市からは、だいたい 10 作品くらいに絞りたいと事前にお話を聞いております。アンケート集計から、得票数 5 票以上をカウントするとちょうど 10 作品になります。数の論理からいくと、これで決定となってしまいますが、安城市としては、絶対 10 作品というわけではなく、なるべく南吉の作品をたくさん読んで欲しい、触れてほしいという思いがあるので、11 作品でも 12 作品でもよいというお声をいただいております。

ですので、4 票以下の作品について「これは落としたい！」という意見を聞かせていただきたいと思います。いかがでしょうか。

G委員：

私は、追加作品を 2 つ書きました。

・「百牛物語 大力の黒牛と貨物列車」

なかなか長く、皆さんに注目されない作品かなと思っていましたが、とってもユーモアに富んだ作品でもありますし、この時代（安城で言うところと日本デンマークの時代）の駅前の風景だと読み取りましたので。牛が色々なところへ行って悩んでいる姿が絵になると非常に面白いのかなと思いました。

それから、安城に関わる作品がひとつは入っていてもいいのではないかと思います。

・「久助君の話」

どうしても作品の中で気になる箇所、ひとりの子が「全く違う子供に見えた」という表現があり、この表現がどのように絵になるのか個人的に楽しみでこの作品を選びました。

委員長：

G委員以外の人で、投票してくださった人の意見を聞いてみましょうか。

I 委員：

・「百牛物語 大力の黒牛と貨物列車」

今お聞きしましたが、やはり私はこの作品をじっくり読み直して、これを絵本にしたらどんな作品が出てくるのか楽しみにになりました。

・「久助君の話」

これは絵本にしにくいのではないかと思います。男の子がひとつ成長する時期の、いわゆる第三自立期くらいの話ですね。南吉はそれを文字にしていますが、それを絵本で表現するとどうなるのかという自分の興味から選びました。

J 委員：

・「百牛物語 大力の黒牛と貨物列車」

「安城ステーション」という言葉が登場し、今はなき安城の古い景色がとてもよく表現されています。G委員と同じ角度で、古い安城を知ってもらえるかなという思いが一番です。

そして、半田市の新美南吉記念館で、この作品の映像が部屋に流れています。これは安城の物語ですが、半田で推薦されているのかなと思っています。

副委員長：

・「久助君の話」

精神性のもので、感情が出ていて、すごくいいお話だと感動しました。これを絵本にするのは難しいし、長いなと自分でも思いながらも捨てがたく、投票しました。

わりと今は精神性の絵本が出てきているので、こういったものを取り上げるのはおもしろいと思いました。

委員長：

ここからは私の絵本編集者として回答をします。まず、文章がかなり多いと絵本作りが難しいです。今のこの文章量を絵本にすると、文字だらけ絵本にならざるを得ないと想像できます。募集要項には入っていませんが、32 ページの中でこれだけの文章量で作るというのは、私の経験値上、文字スペースが相当量になると視野に入ります。

また、副委員長がおっしゃったように気持ちの変化が出ている絵本は今世に出ています。絵本というものを作っていく時に、やはり場面が変わらないという作品はもの凄く難しいです。プロの絵描きでも、場面が変わらないとどうしても退屈になってしまうのですよね。絵本は絵が語るメディアなので、できれば場面的に、絵的に面白くなるだろうなというものを絵本のテキストとして優先的に考えるというところがあります。私は絵本編集者ですからね。

でも皆さんの意見から、作品に対する愛情や安城市という場所の昔が分かってもらえるのではないかというお気持ちをとても理解しました。だから入れてはいけないとは思いますが、絵本にするととても難しいタイプのテキストだということはおもって伝えておかねばならないと思います。

最終的に、描く人はこれを描かなくてはならないということではなく、自分で自由に選べるので、安城市が 15 作品くらい入れてもいいよと言ってくれるのであれば、今日ここで熱弁した人の勝ちです。これだけの思いがあるのであれば、私は長い作品を入れるのはあえて反対しません。ここも安城市の決断によりますね。他の方も意見があればぜひ言ってください。

F 委員：

・「花のき村と盗人たち」

ご質問になりますが、先ほどから長い作品は絵本になりにくいとお話がありましたが、安城市にとっての重要性はどのように決めるのか。この作品は長いですが最後の「心のよい人々が住まねばならん。」という南吉の表現があります。こういう事柄を大事にするのであれば、これをどう絵本に入れ込むのかということについて、

考えられないのか、ダメなのかということが分かりにくい。

私たちは、今度この作品の舞台である花ノ木町で朗読をする予定ですが、この作品は、南吉が考えていた究極なのかもしれない。日本デンマークと言われる安城にとっても風景だとか、人間性というものはいいと思うので、これだけ長いものをどのように表現するのか。

委員長：

この作品は長いですが、話の骨格がすごく良いです。絵本になれる話の展開や骨格を持っています。私の今までの経験値から判断しますが、同じように長くても「久助君の話」は絵的に画面が変わらないので展開が難しいと思います。ですが「花のき村と盗人たち」は結構変えられます。これは画面転換が非常に面白い作品で絵的に変えられるので、長いけれどもやりようがあるだろうと私は踏み込みました。ですので、異議を唱えておりません。

「花のき村と盗人たち」は割と有名な作品ですよ。私も以前から知っており、とても印象に残る楽しい作品だと思います。色々な価値観というか、今の読者である子どもたちに何が大切かということを伝えていけるような内容のものなので、長い作品ですが、私は異議を唱える気はなかったですね。長いなら文字を小さくするなど色々な方法があるにはありますが、これはそれこそ絵を描く人が規定のページ数の中でどう料理するのかも見ものですよ。良い作品だと思っています。

C委員：

・「花のき村と盗人たち」

この作品はとても良いものだと思います。ですけど、既に小学館という出版社から本が出ており、どうしても比較をしてしまう。それは作品としてはどうなのだろうと思います。

・「でんでんむしのかなしみ」

同じように、かなり作品が出ています。やはりどうしても作品同士を比べてしまうのですよね。

すでに出ている作品の精度を越えるかどうか、越えなければ大賞の意味がないのではないかと思っています。

委員長：

それはご心配なく。それだと私は賢治絵本を作れません。「セロ弾きのゴーシュ」など山ほど出ていますが、新たに作ります。これは、その人なりのものであって、今まで出ている作品と比べる賞ではありませんから。ご心配には及ばないと思います。

C委員：

プロの見方はそうなのだと思います。しかし、一般市民は普通に読んでだけで、やっぱり比較してしまうのですよね。この作品が悪いとは思っていませんが、もし大賞をとった時にどうしても比べられるだろうなということは懸念しています。

委員長：

それは心配しないで行きませんか。そうすると「ごんぎつね」、「手ぶくろを買いに」も誰も描けなくなってしまうし、どちらの作品が好きかという人気投票になってしまいますから。一般市民の方だって色々な捉え方をすると思います。

そして、この絵本大賞の主旨からすれば、そこは心配しなくてもいいのではないかと思いますね。一般の絵本の賞なら今の理論は多少分かりますが、これは違う主旨でやっている賞なので。

もう一つ言います。新美南吉の童話をしっかり読んでほしいと思われているのであれば、私はプロの画家たちと仕事をしていますが、うっかりしていると画家も書き間違えるのですよ。本当に一字一句文章を読まなければ絵にできないです。だから文章がすでにあるものを絵本にするという過程を経ることで、本当に文章を読むということが必要になってきます。

私は宮沢賢治の絵本をずっと作って来ながら、もう一度宮沢賢治を旅することになりました。たった一字のこと。例えば、「セロ弾きのゴーシュ」で色々な動物たちがたずねてきます。最初に猫が来ます。そしてカッコウ、たぬき、最後にねずみが来ます。最初に猫が持ってきたお土産を覚えていますか。そして最後にねずみが持ってきたお土産を覚えていますか。わりと最初の猫のお土産を覚えている人は多いです。猫はトマトを持ってきます。まだ熟れていないトマト。ここが重要ですけども、最後にねずみの親子は栗を持ってきます。うっかりしていると、栗なので茶色のものが頭に浮かぶと思います。ところが、よく読むと、たった2文字で「青い栗

の実」と書いてあるのです。ここでうっかり茶色の栗を描いてしまうと、賢治の考える向こう側の意図を読み取れていないということになります。お礼なのになぜ食べられない未熟な青い栗の実を持ってくるのかということ、絵を描くときに私たちは一度立ち止まるのです。そのためにものすごく色々なことを調べます。栗農家に電話をかけまくり、栗は乳白色ではない薄黄緑の時があるということが分かり、絵描きさんに「栗には薄黄緑の時があって、青い栗はあります。」と伝えて着彩していただいています、そこで考えるわけです。なぜ賢治はねずみに食べられない「青い栗の実」を持って来させるのかと。どんな思いを込めたのかと。私たちはたくさん考えました。そして、主人公のゴーシュは未熟者という暗喩としての栗の実なのではないかと私たちは勝手に想像しました。

そして、なぜ動物たちがやってくるだけでゴーシュが上手になるのかということが私たちにとって謎でした。考えて、考えて、ある時、小澤征爾のドキュメントを見た時に、ある種の答えを発見し、絵本として描くべきことは何なのかということ、絵描きさんと話し合っただけで絵にしていきました。

だから文章をどこまで解釈し、読み込めていくか、これは本当に個々で皆違うのですよ。絵がかっこいいから良いという訳ではない全然ないのです。こういった既に描かれていて、原作者が亡くなっている名作と言われるような作品たちをうっかりセンスだけで描いてしまうと、本当にその作品を解釈していないということがあります。有名な画家でも大間違いをしている時があります。なので、これを今描こうとしている人たちの絵がテクニックとして上手ではなかったとしても、既に出ている絵が上手で、表現が上手だとしても、絵本にする時に、その作品を深く、深く読まなくてはならないのです。

私はこの安城市の試みはそこにあると思っています。だから審査員を引き受けた。ストーリーを本気で読んでくれるということを思ってこの審査員を引き受けました。だから、既に出ている作品と比較されてしまうのではないかとこの心配は、この主旨に当てはまらないと思います。これは私の意見なので、皆さんがどう思われるかは分かりませんが、その人なりの解釈が素晴らしければ、その作品が大賞を取ったっていいでしょうって思っています。

黒井さんは黒井さんの「ごんぎつね」を描きました。そして黒井さんは黒井さんの「手ぶくろを買いに」を描きました。私はその時の黒井さんが、何に苦しんでいたのか現場を見ていたので知っています。ある時打合せで黒井さんから「手ぶくろ

を買いに”が描けない。」と言われたので「どうして描けないの。」と聞いたら「手袋を買いに行くまちが見えない。」って。そこで私は「そのタイプのまちなら、神保町にあるよ。」って言ったら、突然彼は立ち上がって「今すぐに行く。」と言って、結局私はかばん持ちでついて行ったのですけど。そして神保町で看板建築と言われる場所を黒井さんは必死でスケッチしていました。私はすぐ近くでその様子を見ていました。そして黒井さんが現場の空気を掴めたときに、やっと『手ぶくろを買いに』が描けたのです。

なので、皆さんそう簡単には描いていなくて、絵描きそれぞれが、何が掴めなかったら描けないのかっていうのは皆さん個々違ってきます。私は40年間この仕事をしていて、様々な画家のそういう道行を見てきました。それはプロだからできていて、素人だからできない、劣っている、及ばないとかの話ではないのです。それこそ小さい子はだから見抜くことがあるのですよね。私はそういう目線を大切にしないといけないと思っているタイプの人間なので、審査の際に、そういう比較では見ないです。作品そのものを深く読んで、その人がどう解釈したのか、どうビジュアル化したのか、そこだけを見ます。これは審査員としての私の姿勢ですけれども。

D委員：

・「たけのこ」

南吉さんの心情を表していると思いました。ほかの人がどう思うと関係ない、自分は笛になるというところがとても好きな作品です。そしてこの作品は4票入っています。そのことを鑑みますと、今までに入っていないもので次点にあるものをいれるのはどうでしょうか？

もちろん絶対に入れなくてはいけないような毎回入っている作品もあると思いますが、ここで協議をして、これは入れてもいいのではないかという作品を入れ替えるなど考えていただければとても嬉しいです。

委員長：

D委員は「たけのこ」を推したいということでいいですね。

D委員：

・「たけのこ」

この作品は、新美南吉を含むその時代の何かを表現したいと思っている人の気持ちがよく表れていると思っているので、推薦します。

委員長：

第1回、第2回と言っても5年ごとの賞なので、あんまり考えることないと思います。ここまで間が空いていればすべて振り出しに戻っていると同じだと思います。

委員長：

私も熱弁してもいいですか。

・「こうし」

得票数は2票しか入っていないのですが、絵本編集者として、絵として面白くできるかとも思いました。牛のお父さん、お母さんが自分の子どもなのだから、こんなもの生えたとあれこれ妄想をするお話。

絵本を作るときに、文章はないけれど、文章を入れないページも作ることができます。南吉の文章を一切変えないで、絵だけで勝手な妄想を膨らませることが可能という絵本的な特権があつて。

ある意味では、南吉さんの文章をきっかけに、絵を描く人との合作のようになるのですが、絵本的には面白くなるかもというテキストではあります。私としては、誰も描かないかもしれないけれど入れておいてもいいのではと思っています。

委員長：

今これで4作品（「百牛物語 大力の黒牛と貨物列車」、「久助君の話」、「たけのこ」、「こうし」）を入れると、全部で14作品が候補になります。

安城市が承諾されるなら、描く人の選択肢が増えますし、せっかくこれだけ審査員の方々の声が挙がったので入れるのはいかがでしょうか。

事務局：

G委員にお聞きしたいです。

・「百牛物語 大力の黒牛と貨物列車」

これは百牛物語の3にあたるお話ですが、これだけを取り出すのは、南吉的にどうでしょうか？

G委員：

それは気にはなっていたのですが、面白いだろうなという気持ちが勝ってしまいました。

J委員：

南吉は百牛物語を書きたかったのですが全て書いていません。全集にもこれだけしか載っていません。勢い込んで 100 個の物語を描こうとしましたが妄想だけで。たまたま書きあがっている作品はこれということだと思います。

委員長：

それを聞いてしまうと、必ず入れるかは微妙ですね。

これを選ばれている方がいいのでしょうか。

I委員：

・「百牛物語 大力の黒牛と貨物列車」

たしかに、これは絵本にしようがないなとは思いました。絵本にできる人がいれば面白いなとも思いましたが、なぜこれを選んだのかというと、候補作品がいくつもある中で、描こうと思った人は読んだことがない作品があれば、図書館で借りても読むと思うのです。読むきっかけになってほしい。こんな作品もありますよという紹介として。

私は名古屋の人間ですが、安城には関わりがあって関心もありますが、安城の人ほど南吉愛はないと思うのです。そういう視点から見ると、どれをとっても比べられるということはないと思いますけど、文章として完結しているものを絵本にするというのは、もともとの絵本とは違って、絵で描く作品論だと思っています。どれだけ同じタイトルの作品が絵本になってきても私は構わないのです。なので、これを入れてほしいと思うのは、こんな作品もあるということを、安城以外の人に知ってもらうためです。

私は赤ちゃんの読書会をやっており、赤ちゃんとそのお母さんに関わっているのですけれど、また近日中にこの安城市図書館で赤ちゃんの読書会を開催します。その際に、ブックスタートで配っている絵本を開いたことがあるか聞こうと思っています。せっかくこのような会議を開いて良い作品を作って渡しているのに、それ

がどう使われているのかも知りたいところなので。

昨今、「文章力がない」や「読解力がない」などと言われていますが、絵本の成り立ちからすれば、絵本を読んでいるだけでは、その力はないですね。絵で表現して字で補っている訳ですから。名作絵本だったら字で完結したものに絵がついている訳ですから。

絵本で十分心が動くような子どもを育てれば、次の幼年文学に行く手前として、その本が使えるとお母さんに提案しようと思っています。そう思うと、「百牛物語 大力の黒牛と貨物列車」や「久助君の話」が賞をとってしまうと、少しやりづらいなとも思っています。

委員長：

これを絵で描きこなす人がいれば相当な力量だと思いますよ。

I 委員：

幼年文学と絵本との間の位置づけとして、南吉さんの本を出すのであれば、これを入れてほしいと思いました。

委員長：

I 委員のおっしゃる南吉の作品を知るきっかけにしたいという気持ちはとてもよく分かります。そういう意味では「百牛物語」も、100 個のお話を書けなかったということは置いておいて、ここにひとつのお話があるので、3 番でも 4 番でも問題はないかと思いました。反対はありません。あとは安城市がタイトル数を増やすことをよしとするならばだとは思いますがどうでしょうか。

事務局：

「百牛物語」以外の 3 作品は入れようと思います。

ですが、勉強不足で申し訳ありませんが、「百牛物語」については、南吉にとって連作で読んでほしいものなのか、単発でも読んでいい作品なのかが分からないので、後ほど教えていただき、最終的に松田さんと相談して決めたいと思いますがよろしいですか。

委員長：

分かりました。J 委員が詳しそうなのですが、「百牛物語」の 1、2 は読んだことがありますか。

J 委員：

はい。連作というよりも、本人は最後まで書きたいと思っていましたが、1 つずつ単発で物語として完結しています。ただテーマが牛というだけです。

委員長：

要は、続き物ではないということでしょうか。

J 委員：

はい。完結しています。連続ものではありません。

委員長：

では事務局の心配は要らないですね。

事務局：

編集者として、こういった作品を入れるというのはどうですか。

委員長：

編集者として作りやすいテキストと作りにくいテキストはあります。ですが、安城市の南吉をもっと知って欲しいということが根幹にあるこの賞でしょ。だったら、作品を知ってもらうきっかけとしてならば、その主旨に入るのですよね。

絵本は作りにくいかもしれない。でも南吉を色々な扉から開けて見てほしいというのは、安城市の主旨と合致しているから。なので、私の今までの経験値からは判断ができないのです。安城市がなぜこの賞をはじめたのかという原点にいつも戻らなくてはいけない。そう思ったら、I 委員たちの意見はとってもわかるなと思いました。だから入れてもいいかなと思った次第です。

事務局：

ありがとうございます。できればたくさんの本を読んで欲しい、できれば安城市に関わる作品を読んで欲しいというのは私たちも非常に望むところですので、各得票数5票以上の作品と意見の出た4作品を募集作品としたいと思います。

委員長：

では、14点が候補作品ということでよろしいでしょうか。

これはこの場で決定です。

では議題が終了しましたので、事務局にお返しします。

館長：

委員長、議事の取り回しありがとうございました。委員の皆様もご熱心に協議いただきありがとうございました。

これで議題の審議がすべて終了しました。

委員の皆様、事務連絡等がございます。第3回の選考委員会は、12月22日（水）午後2時から、本日と同じこちらの会場で開催いたしますのでよろしくお願いいたします。議題については、審査の日程についてと、作品募集のポスター・チラシのできたものをご確認いただく予定をしております。最後に、会議の委員報酬として7,500円を11月25日に口座に振り込みをさせていただく予定です。

事務連絡は以上になりますが、何かご質問はございますか。

<発言なし>

以上で第3回安城市新美南吉絵本大賞第2回選考委員会を終了いたします。本日はありがとうございました。お帰りの際は交通安全に十分ご留意いただきますようお願いいたします。

閉会 午後4時41分